

たにがわ るみこ
谷川 留美子（超党派の会）
高崎公園のリニューアルと活用



質問 高崎公園に古くからある老朽化が進んでいる池を子どもが遊べる水辺にしてほしいとの市民からの声があるが、この池を子どもが遊べる親水施設へ転換することはできないか。

答弁 池にはコイなどの生き物が定着しており生態系への配慮とバランスを考慮する必要がある。池全体の抜本的な改修には多額の費用と大規模な構造転換を伴うため、現時点での転換は考えていないが、今後幅広い視点で研究したい。

質問 高崎公園内にあるシンフォニーガーデンを本市の玄関口にふさわしい公園の顔として、訪れた方々から分かるように拡張できないか。

答弁 専門知識を有するボランティアの人材確保や公園の敷地面積に限りがあることから拡張は困難であるが、現在のシンフォニーガーデンの魅力を高めることで、憩いの場としてのさらなる質の向上に取り組んでいきたい。

なかじま てるお
中島 輝男（市民クラブ）
学校教育における生成AIの利活用
新型コロナから学ぶ今後の感染症対策



質問 文部科学省はAI活用にかじを切り、働き方改革につながる校務活用を研究しているが、**生成AI**の活用は児童・生徒の学習や教職員の校務負担にどのような可能性があるかと考えるか。

答弁 児童・生徒の学習支援においては、一人一人の興味・関心や習熟度に応じた個別最適な学びを後押しするツールとしての可能性が考えられる。また、教職員の校務負担軽減については、授業用教材の作成補助等の業務効率化により創出された時間が、子どもたちと向き合う時間の確保などに寄与する可能性があるかと考える。

質問 新たな感染症の発生に備え、コロナ禍で得た教訓をどのように行政運営に生かすのか。

答弁 有事の際の意思決定のさらなる迅速化や職員の応援体制の強化のため、コロナ禍で発展した行政のDX化を推進し、利便性の向上と業務の効率化を同時に図ることが重要と考える。

わたなべ たかひろ
渡辺 隆宏（新風会）
コンテンツツーリズムによる
榛名湖の活性化と誘客促進



質問 榛名湖周辺での、漫画「頭文字D」の**聖地巡礼**の状況等をどのように把握しているか。

答弁 秋名山、秋名湖として登場する榛名湖周辺等には多くのファンが訪れ、作中に描かれた場所での記念撮影やSNSへの投稿等も行われ、榛名湖周辺のにぎわい創出に寄与している。作品関連の土産品の人気が高く、聖地巡礼による経済効果も一定程度あると認識している。

質問 「頭文字D」の聖地としての案内看板の設置やパンフレット等の作成に対する考えは。

答弁 榛名湖周辺へのさらなる誘客につなげる方策として一定の効果が期待される。一方、権利元との契約締結や調整等も生じるため、県の頭文字Dプロジェクトの進捗状況等や湖上ステージ整備等に関連する各種事業、財政状況等を総合的に勘案し、地元観光関係者等と連携を図りながら、今後研究していきたい。

あおき かずや
青木 和也（新風会）
現下の社会情勢を踏まえた市内経済の
状況と市内中小企業に対する取り組み



質問 昨今の国際状況の変化が本市経済へ与える影響を的確に把握し、必要な対策を講じていくことが重要であるが、中東情勢に伴う価格高騰などの影響をどのように認識しているのか。

答弁 ナフサ由来の原材料の供給不足や価格高騰など今後の推移次第で幅広い産業に影響が及ぶと認識し、特に価格転嫁の難しい中小企業の経営状況を深く懸念している。本市では関係機関と連携し、現場事業者の生の声や**サプライチェーン**の滞りに関する情報収集に努めている。

質問 市内企業の人手不足や人材確保に対する本市の取り組みは。

答弁 学校卒業後1年以内に市内中小企業に就職した29歳以下の市民に10万円の奨励金を電子通貨で交付する中小企業就職奨励事業、資格取得の受験料を1社当たり10万円を上限に補助する中小企業者資格取得支援事業を行っている。

● **コンテンツ**
ツーリズム
(P4参照)
● **聖地巡礼**
(P4参照)
● **生成AI**
(P4参照)



映画、ドラマ、アニメ、漫画、小説、ゲームの作品の舞台やロケ地を訪れる観光形態。

アニメ等の舞台となった土地やゆかりのある土地を「聖地」と称して、その土地をファンが訪れる行為。

文章、画像、動画などの全く新しいものを作り出すことができる人工知能。

たかはし じゅん
高橋 淳（新風会）
担い手不足への対応と
持続可能な地域づくり



質問 区長等の担い手不足への対策としての各種報酬や補助制度の見直し、活動支援の内容は。

答弁 区長報酬や民生委員・児童委員の活動費、環境保健委員の報酬を約1割増額したほか、環境美化協力員、廃棄物減量等推進員、防犯委員への謝金や活動費も増額した。また、町内会DX研究支援等を通じ、地域コミュニティの活性化と持続可能な担い手確保につなげていく。

質問 地域との関わり方が多様化する中、市民や民間団体が主体となる実行委員会方式のイベント等は、市民が地域と関わる有効な参加の場である。実行委員会方式の意義をどう考えるか。

答弁 実行委員会方式は地域の一体感の醸成や、にぎわいづくりに寄与することに加え、多様な団体や関係者の連携により、人材育成や地域活動への参加のきっかけづくりにつながる意義深いものであると捉え、今後もサポートしたい。

いとう あつひろ
伊藤 敦博（日本共産党）
「どうしていまさら倉淵ダムなのか」
小学校早朝開門の問題点



質問 倉淵ダム建設が本市の洪水対策に及ぼす効果をどのように把握しているのか。

答弁 国が、利根川上流部における洪水調節機能の強化に向け、既存施設の活用や過去に中止されたダム予定地の活用について、他のダムとともに、調査・検討を始めたと承知している。本市の洪水対策に及ぼす具体的な効果についてはまだ示されておらず、今後も国の検討状況を注視していく。

質問 早朝開門について、これまでの経緯を振り返り、改めて現状把握のやり直しから、子どもの見守り環境を整えるべきだが、見解は。

答弁 これまでも各学校では登校してから始業時刻までの間、児童は自由に過ごしていたが、本取り組み開始後も、これまでの朝の過ごし方の延長という考え方に変わりはなく、預かり事業や居場所づくり事業の実施は考えていない。

はやし つねよし
林 恒徳（市民クラブ）
本市におけるクビアカツヤカミキリの
被害及びその対策



質問 クビアカツヤカミキリは、サクラなどの木を食害する特定外来生物に指定された害虫であり、行政でもさまざまな対策を行っているが、群馬県の対策は。

答弁 令和8年度から被害があった市有施設等の樹木伐採経費に対する補助事業を開始した。また、被害や生態を広く周知するため、新たな啓発事業を開始し、県内で発見した成虫の死骸を10匹以上森林事業所等に持ち込んだ県民に対し、特定外来生物カードを1枚配布している。

質問 本市では果樹への影響も心配であるが、クビアカツヤカミキリ被害への対策は。

答弁 広報等で市民への周知を図り、被害を確認した場合は薬剤と防虫ネットを無償配布し防除に努めている。令和8年度は県のぐんま緑の県民基金も活用し、環境部の防除対策費用を令和7年度の約2.8倍に増額して対応している。

からさわ たかお
柄沢 高男（無所属）
地方自治体の選挙制度
住民投票



質問 地方自治法に規定される議員の役割は。

答弁 首長が政策を実施する執行機関であることに対して、議会は議決機関と位置付けられており、その構成員である議員は住民の信託を受けた代表として、条例の制定・改廃や予算の決定、決算の認定といった重要事項の審議および議決を行う役割を担っている。さらに、行政を監視する役割や、住民の多様な意見を広く行政に反映させる政策提案の役割など、地方自治の本旨を全うするための重要な役割を担っている。

質問 住民投票の結果と議会や首長との関係は。

答弁 地方自治法に基づく議会の解散や議員・首長の解職に係る住民投票は、有効投票の過半数の同意で解散や解職となる。条例に基づく住民投票は、原則として法的拘束力を持つことはできないと解されるが、政治的・道義的に結果に従う責任を負うものと取り扱われている。